

From Ibigawa S A B O

寒さが厳しくなり、越美山系の積雪量も増加しております。そんな中、管内工事が着々と完成しておりますので、今号は本年度の工事が完了した4件（八草山腹崩壊箇所の復旧工事は竣工）をご紹介します。

八草川山腹崩壊箇所の復旧工事が無事竣工！



山腹崩壊被災当時



H28.12 無事完成！

はっそうがわさんぶくほうかい

◆ 八草川山腹崩壊

発生日時：平成22年1月11日13:40頃

崩壊規模：延長約90m、高さ約100m
深さ(鉛直方向最大)約10m
崩壊土量約 2万m³

【当時の対応】

越美山系砂防事務所では、学識者の支援を受け監視カメラや土石流センサーを設置するとともに、崩壊2日後には応急対策工事に着手するなど、被害拡大の防止のための危機管理にあたりました。

平成22年1月11日、揖斐川町坂内川上地先で山腹崩壊が発生、町道を寸断し、崩壊土砂量約2万m³が八草川に流入する被害が発生しました。放置すると、崩壊が拡大し、八草川をさらにせき止めて下流へ被害を与える恐れがあったため、復旧工事が進められてきましたが、7年の歳月をかけ、このたび完成に至りました。

【現場技術者の声】

本工事は、前年度まで進められてきた崩壊土砂の撤去、及び法面保護対策の最終工事で、崩壊箇所最下段の施工です。崩壊土砂の撤去作業では、旧道部分を含め元の地形がよくわからない状態での作業であること、また、八草川河道内に沈設された根固めブロックの撤去作業は、設置後数年が経過し埋設や破損が見られるなど、作業を進める上で発注者や協力業者との意見交換で最善策を探し安全に作業を進めることが出来ました。

工事が無事に完了できたことは、日頃からご支援・ご指導をいただいた発注者の皆様、地元住民の皆様、関係者の皆様のご理解、ご協力の賜物と感謝しています。本当にありがとうございました。



(監理技術者：中島 時義)

はっそうさんぶく
(H28八草山腹工事：(株)ヤマモト)

八草山腹工事の施工業者

工事に携わられた皆さま、
大変お疲れ様でした！

- 平成22年度 越美山系八草川山腹工事 [H22, 10, 23 ~ H23, 3, 30]
(株)久保田工務店：現場代理人 澤崎 哲也、監理技術者 安藤 成年
- 平成24年度 越美山系八草川山腹工事 [H24, 8, 9 ~ H25, 12, 20]
(株)久保田工務店：現場代理人 鳥田 誉、監理技術者 高木 誠治
- 平成25年度 越美山系八草川山腹工事 [H26, 3, 29 ~ H27, 1, 9]
(株)久保田工務店：現場代理人 安藤 成年、監理技術者 小松 勝裕
- 平成26年度 越美山系八草川山腹工事 [H27, 2, 24 ~ H27, 12, 18]
(株)久保田工務店：現場代理人 高橋 和也、監理技術者 高木 誠治
- 平成28年度 越美山系八草川山腹工事 [H28, 7, 7 ~ H28, 12, 9]
(株)ヤマモト：現場代理人 高橋 一真、監理技術者 中島 時義

※法人については文中敬称略



クマタカ通信をメール配信します。配信希望の方は下記宛に「配信希望」とメールを送信して下さい。また、クマタカ通信の感想やご意見もお待ちしています。



発行 国土交通省中部地方整備局
越美山系砂防事務所 揖斐川砂防出張所
〒501-0619 岐阜県揖斐郡揖斐川町三輪2303-3
Tel: 0585-22-3526 Fax: 0585-22-6626
E-mail: cbr-ibigawasabo@mlit.go.jp

坂内白谷砂防堰堤工事

【 工事の概要 】

当工事現場は、揖斐川町坂内坂本の坂内川右支川白川の支溪です。

今年度が第1期工事で、管理用道路、工用道路の設置と本堤の一部を施工完了しました。大変狭い谷の中での施工で、ヤードの確保について課題となりましたが、現場内の整理整頓、仮水路の設置の工夫等により克服でき、無事工期限内に完了することが出来ました。



現場技術者の声

狭いヤードでの施工で、大雨等で河川が増水した場合の避難方法、また、その際の現場内の対策等、

特に安全管理に重点を置き施工を進めていきました。ご無理を言ったことが多々ありましたが、作業員の方々、また、現場に携わっていただいたすべての方々のご協力のおかげで無事故・無災害で工事を完了することが出来ました。地元住民の方々を含め、ご理解とご協力に感謝を申し上げます。



(監理技術者：
堀部 真矢)

さかうちしらたに
(H28坂内白谷砂防堰堤工事：西建産業(株))

高地谷第1砂防堰堤工事

【 工事の概要 】

当工事現場は、揖斐川町小津で、揖斐川支流の高知川の上流に位置します。昨年度、付替え道路は完了し、今年度から堰堤工事に入りました。

まず堰堤の床掘りの最上部は、高所法面掘削機での施工、その後通常のバックホウでの床掘り掘削となりました。

床掘りが完了し、底盤部の岩着コンクリートの打設を行い、その上に砂防ソイルセメントの施工と保護コンクリートの打設を行いました。今年度は1リフトの施工で完了となりました。



現場技術者の声

床掘り施工中の法面と底盤部からの湧水がひどかった事と、設計面で岩盤がなかなか出てこなかった事で苦勞しました。また現場は急峻な地形な為、落石等の危険が多くあり安全対策へも重点をおいて施工を行ってきました。

今年度工事も工事関係者の方々や地域住民の方々の、ご理解ご協力のおかげで無事故無災害で工事を完成する事が出来た事に感謝を申し上げます。



(現場代理人：
高木 良祐)

たちだに
(H27高地谷第1砂防堰堤工事：西濃建設(株))

◎ 本堤は、砂防ソイルセメント工法による堰堤では日本最大(本堤高27m)となります。※関連記事クマタカ通信vol.128

大谷川第3砂防堰堤道路工事

【 工事の概要 】

当工事現場は、揖斐川町坂内広瀬地先の坂内川左支川大谷川の支溪で、大谷川第3砂防堰堤を構築するための資材運搬路工事です。

当工事は、メタルロード工法(新技術工法)

が採用された継続工事になります。1号メタルロードについては、床版工までが完了し2号メタルロードについては、基礎杭及び桁の設置を行いました。



現場技術者の声

当現場は、メタルロード工法(新技術工法)が採用されたこともあり、急傾斜面で狭小であり、ひとたび労働災害が発生すれば重大災害になり得る事を認識し、災害防止活動については、特に「墜落・転落対策」を重点的に行いました。また、条件的に片押し施工のため工程管理も課題となり、厳しい条件を踏まえ現場従事者と日々綿密に連携、調整を行い、円滑に進捗することに苦慮しました。

今後も継続して、災害事故はいつでもだれにでも、ふとしたことから起きることを忘れず、作業中は緊張感を保ち、互いを思いやり協力し、コミュニケーションをより一層図る必要があることを実感しました。各関係者のご理解、ご協力により無事故・無災害で工期限内に完了できたことに感謝申し上げます。



(監理技術者：
篠田 達也)

おたにがわ
(H28大谷川第3砂防堰堤道路工事：(株)久保田工務店)

コラム：なぜ建設業就業者は増えないのか？ - カギを握る転職入職者 -

越美山系砂防事務所長 伊藤 誠記

建設業界で働く人の数が増えません。平成22年より7年連続ほぼ500万人で横ばいです（図-1）。この間建設投資額は41.9兆円から51.8兆円へ約24%も上昇しているにもかかわらず、変化がないのはなぜなのでしょう。ということで今回は、建設業就業者数が増えない理由を分析し、増えるためのヒントを得たいと思います。

まず、業界への人の出入りを以下に分類します。

- ・学卒者・・・学校を卒業してすぐ入職した人
- ・転職入職者・・・学校を卒業後、他産業での就労や無職期間をへて建設企業へ入職した人
- ・転職離職者・・・建設企業を辞め、他産業へ転職した人
- ・引退者・・・高齢等を理由に建設企業を辞め、今後仕事をしない人

これらの分類別の人口及び経年変化が分かれば、増えない理由が分析できるはずですが。※）詳しく知りたい方は、注釈をご覧ください。

結果は、図-2のとおりです。この図からは、以下のことが読み取れます。

- ・学卒者は、H22から2倍増で、ここ15年でも高い水準。
- ・転職入職者は、右肩下がりだったが、H24の10万人を底に、ここ3年ほどは平均15万人程度で推移
- ・転職離職者も同様に右肩下がり傾向だが、直近のH27にやや増加傾向
- ・引退者は、近年8.5万人程度でほぼ一定

これらを合計すると、年によって振幅はありますが、ほぼ出入りが釣り合っていて、労働人口が増えていないことがわかります（図-3）。少なくとも、現状ではシニア世代の引退が増えていることが、建設業就業者が増えない原因とは読み取れませんでした。

上記の結果から、建設業就業者を増やすヒントも見えてきます。まず、学卒者は、ここ15年ほどで最も多い年でも6万人程度であり、現状（H27：5.4万人）から学卒者を大きく増やすのは容易でないことが見て取れます。

一方で、カギを握るのは、学卒者の約3倍の転職入職者です。10年前には15～20万人が転職入職していましたが、現在は比較的低い水準にとどまっています。これを10年前の水準に引き上げられれば、建設業労働人口に大きな影響を与える可能性が見て取れます。

つまり、学校だけを担い手確保のターゲットにしても効果は限られるかもしれませんよ、というのが今回調査の結論でした。行政や業界のPR活動の一助になれば幸いです。

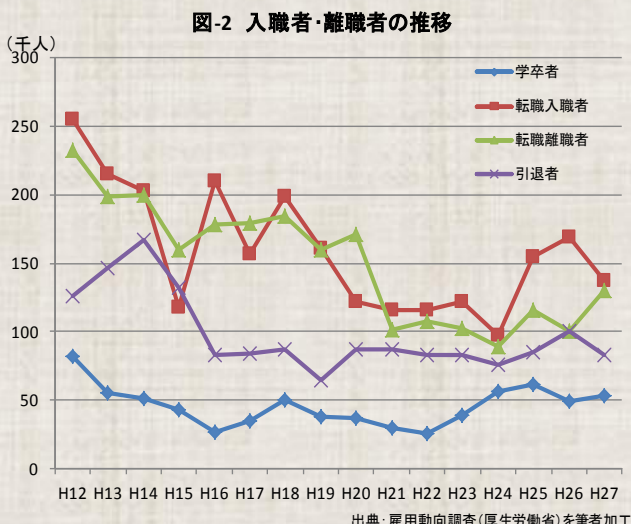
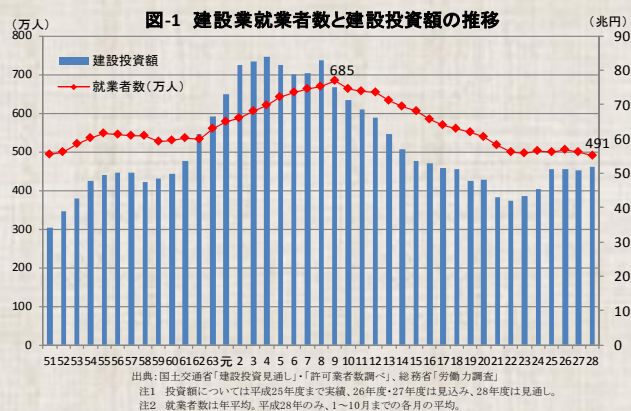
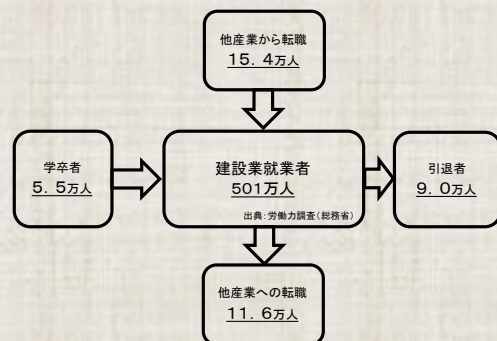


図-3 平成25～27年度平均 建設業就業者の異動状況



注釈のない数字の出典：雇用動向調査(厚生労働省)を筆者加工

データの算出手法：前職が判明している転職入職者は、調査時点で在籍していた者しか調査されていないため、「調査時点で在籍していない者も含めた建設業への転職入職者」に、「調査時点で在籍している他産業から建設業へ転職入職した者」÷「調査時点で在籍している建設業への転職入職者」をかけることで、「調査時点で在籍していない者も含めた他産業から建設業への転職入職者」を算出しています。転職離職者も同様です。また、60歳以上の離職者を、一律「引退者」と推定しました。実際には60歳以上で転職する方も一定数いると思われるので、引退者については実際よりもやや過大な数字である可能性があります。